

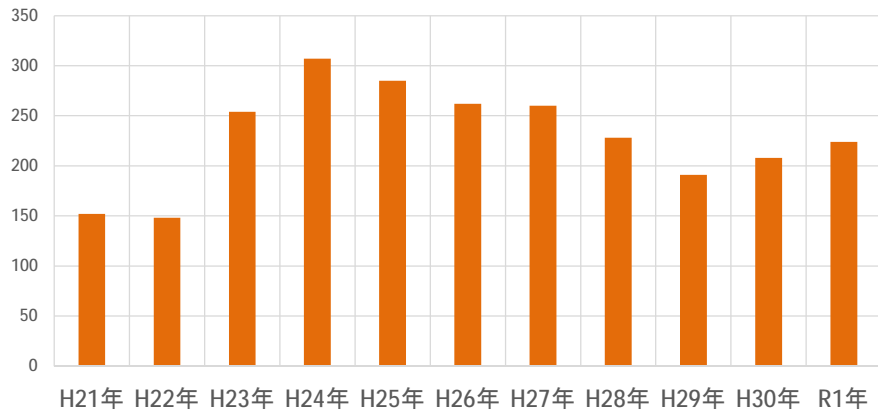
令和元年調査結果について

◆令和元年は**224**件（昨年より**16**件増加）

◆未受診や飛び込みによる出産をするハイリスク妊産婦と児童虐待の背景要因は類似しており、多くの機関が継続して支援する必要がある。

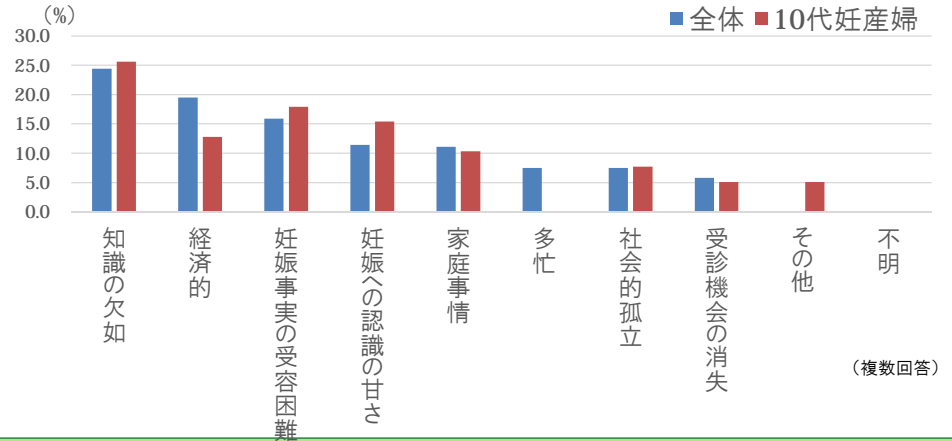
未受診妊婦数

●平成**21**年から調査開始後増加し、**24**年の**307**人をピークに減少が続いたが、**30**年より増加に転じている。



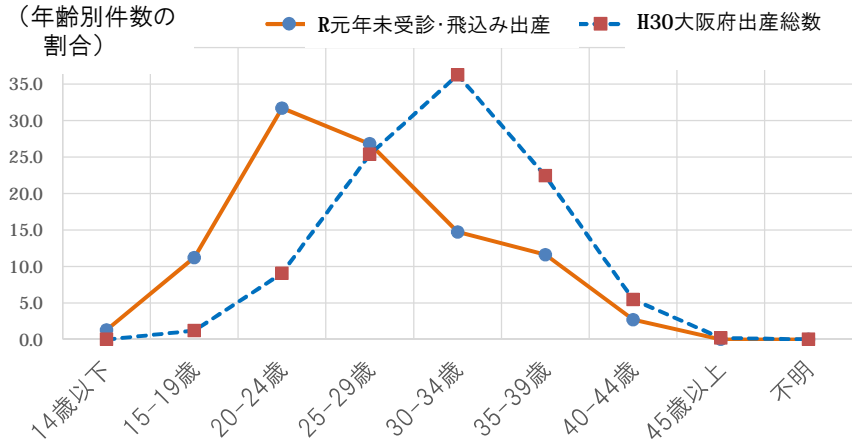
全体と10代妊産婦の未受診の理由

●全体では、「知識の欠如」が**24.4%**と一番多く、ついで「経済的問題」が**19.5%**となっている。
●**10**代妊産婦は、妊娠に気づかなかったという「知識の欠如」、「妊娠の事実の受容困難」、「妊娠に対する認識の甘さ」が多くなっている。



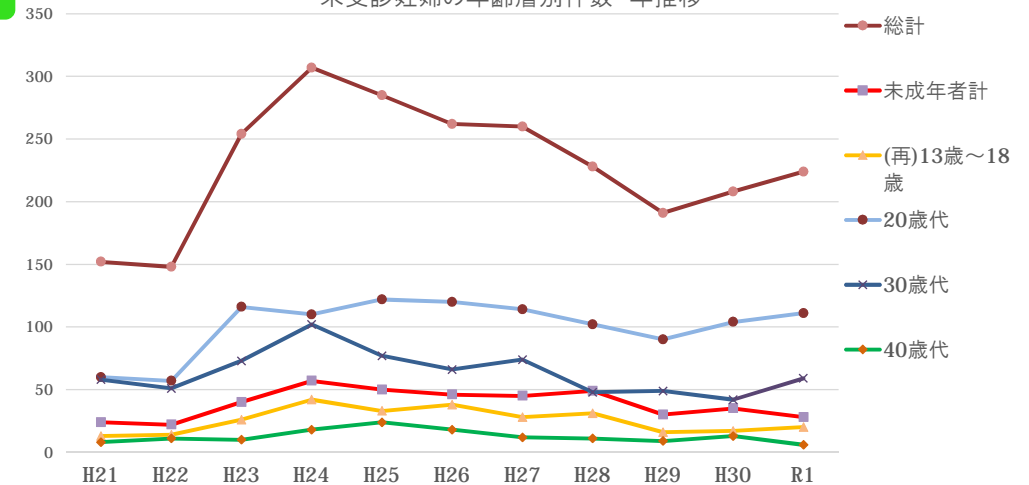
未受診妊婦の年齢分布

(年齢別件数の割合)



- 府内の出産年齢では**30～34**歳がピークである。
- 未受診や飛び込みによる出産では、幅広く分布しているが、全体的に低年齢の傾向にある。
- 未受診や飛び込み出産をした妊婦の平均年齢は約**26.3**歳であった。

未受診妊婦の年齢層別件数 年推移



- 未成年の占める割合は、令和元年は**19**歳が前年より大きく減少したため減少し、調査開始以来最小であったが、**18**歳以下はむしろ増加していた。
- 未受診妊婦の平均年齢は、調査開始年が**28.3**歳、以降、毎年僅かずつ低下し、**10**年間の平均年齢は**26.9**歳と、緩やかな若年化の傾向にある。